

就活必勝法で盛り上がる 初のOBOG懇談会 人文学部

茨城大学人文学部は、卒業生7人を講師として招き、学部にとって初の試みとなるOBOG懇談会を12日午後、図書館のライブラリーホールで開催した。

第1部と第2部に分かれた懇談会には、約90人の学生が



参加。シンポジウム形式の第1部の全体会合と第2部の分科会では、「内定獲得で大事なことは」、「就活の秘策は」などの指南を求める現役学生の真剣な質問が飛び交っていた。



学部後援会の支援を受けて開催した懇談会が講師として招致したのは、卒業10～5年の学部OB4人とOG3人。学生の就職に詳しい清山教授（労働経済学）と学生委員会の調整の末、茨大生に人気のある金融、役所、旅行業、流通、マスコミなどの業界から人選した。

冒頭、清山教授が、「就活必勝法が聞けるまたとないチャンス。本日は無礼講、本音の議論をし、有効に時間を活用してください」と口火を切った。

これに続き、トップバッターとして登場した住友電気工業勤務の村岡さん（葉ゼミ出身）が、関心の高い就活必勝法について「相手の立場になって考えること」と提唱。これに続く近畿日本ツー



リスト（小泉由美子ゼミ）勤務の軍司さんは、「自分を売り込む」、常陽銀行の鈴木さん（田中泉ゼミ）は、「面接官と一緒に仕事をやりたいと思わせること」と指摘した。

就活のキーワードとしては、厚生労働省茨城労働局の沼田さん（佐川ゼミ）が、「克己、自分に負けないこと」、読売新聞記者の饒波さん（住川ゼミ）は、「コミュニケーション力」などを挙げた。イトーヨーカドーの都内の店舗で食品加工のマネージャーを務める保科さんは、「お客さんに喜んでもらうのがと



ても嬉しい」と仕事の醍醐味を語った。

第1部後半のパネルディスカッションでは、テーマごとに講師のOBOGの意見を求めた。就活の具体的な取り組みについて、「自分のキャッチコピーをつくる」「文章の練習」（軍司）、「海外旅行がとても役立った」「行動力を養う」（牧野）、「時事問題への精通」「作文・

小論文の執筆」(饒波)などを強調する声があがった。

企業が求めているものについては、「競争する中で人とのコミュニケーション能力が注目されている」(鈴木)、「元気を求めている」(保科)、「問題意識を持って取り組む粘り強くやるパワーがあるか」(村岡)、「幅広い視野を持って行動する」(沼田)などを指摘する声が聞かれた。



振り返ってみると自分の就活は何点だったのかの質問については、保科さんは「就職できたから100点かな」と満面の笑顔で応えた。

午後3時から、図書館2階などの7つの小部屋に7人の講師が散り、午後5時まで、分科会を開催した。

極意の指南を受けた学生たちは、「就活のやり方や心構えが聞けて良かった」、「気後れすることなく、知りたいことを存分に聞けた」などと語っていた。

講師のOBOGたちは、「熱心な学生ばかりで多くの質問を浴びて良かった」「現役の学生刺激を受けて初心に戻った」「後輩の役に立ってよかった」、「来年も是非来校したい」との感想を漏らしていた。(終)

第二部 分科会



松阪センター長



コーディネーター 保科さん



茨城労働局 沼田さん



近ツリ 軍司さん



住友電工 村岡さん



常陽銀行 鈴木さん



静岡市役所 牧野さん



読売 饒波さん

○ (仕事)のイメージがとぎえることは大抵。

季節の予約もののノルマはある。

○ 仕事でやりがいを感じるとき
とこにも売ってないものを見つけたら
うまく売れたとき

人の人生にかかわることがあるとき

○ 情報のつくりかた: LINE, デバイスの重なりを
敏感に察知する
両者の間の空気をつかむ

「〇〇業界中心に受ける」と言っている人も知らない!

○ 小売のみりこ = 季節感!

○ 就活に伴う問題, お金・情報・焦り
情報共有・公開が大事

○ 国立は就活職に
不利にはばからない。セミ入り、一ツのことにアタマを

○ 下学主催のセミナーには参加すべき

○ 一般職 / 総合職?
→ 女性の管理職に有利な時代

○ 大学生生活でかかるとこ: セミ

時事問題
新聞

1つ1つの
知識は大切

ESについての勉強
→ 型どりのSEO
書けるようになる

極意の板書